

Q0001

IT戦略・DX

タグ：教師あり学習

用語：教師あり学習の定義と役割（確認パターン1）

「教師あり学習」と「訓練データ」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. モデルのパラメータを学習するために用いるデータ
- B. 他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ
- C. ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標
- D. 正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習

答え・解説

Q0001 正答：D. 正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習

解説：「教師あり学習」は、正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0002

IT戦略・DX

タグ：教師あり学習

用語：教師あり学習の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習」

- A. 訓練データ
- B. 教師あり学習
- C. 外れ値
- D. AUC

答え・解説

Q0002 正答：B. 教師あり学習

解説：「教師あり学習」は、正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0003

IT戦略・DX

タグ：教師あり学習

用語：教師あり学習の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「教師あり学習」は、正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0003 正答：○

解説：「教師あり学習」は、正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0004

IT戦略・DX

タグ：教師あり学習

用語：教師あり学習の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「教師あり学習」は、平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0004 正答：×

解説：×です。「教師あり学習」は正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習。問題文の説明は「標準化」の内容で、平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0005

IT戦略・DX

タグ：教師あり学習

用語：教師あり学習の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 訓練データ
- B. 外れ値
- C. AUC
- D. 教師あり学習

答え・解説

Q0005 正答：D. 教師あり学習

解説：「教師あり学習」は、正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0006

IT戦略・DX

タグ：教師あり学習

用語：教師あり学習の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「教師あり学習」と関連用語「外れ値」を整理する。「教師あり学習」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標
- B. 正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習
- C. 他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ
- D. モデルのパラメータを学習するために用いるデータ

答え・解説

Q0006 正答：B. 正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習

解説：「教師あり学習」は、正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0007

IT戦略・DX

タグ：教師なし学習

用語：教師なし学習の定義と役割（確認パターン1）

「教師なし学習」と「テストデータ」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ
- B. 正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習
- C. 分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表
- D. 構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤

答え・解説

Q0007 正答：B. 正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習

解説：「教師なし学習」は、正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0008

IT戦略・DX

タグ：教師なし学習

用語：教師なし学習の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習」

- A. テストデータ
- B. 混同行列
- C. データレイク
- D. 教師なし学習

答え・解説

Q0008 正答：D. 教師なし学習

解説：「教師なし学習」は、正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0009

IT戦略・DX

タグ：教師なし学習

用語：教師なし学習の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「教師なし学習」は、正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0009 正答：○

解説：「教師なし学習」は、正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0010

IT戦略・DX

タグ：教師なし学習

用語：教師なし学習の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「教師なし学習」は、観測されるべき値が記録されていないデータの状態。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0010 正答：×

解説：×です。「教師なし学習」は正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習。問題文の説明は「欠損値」の内容で、観測されるべき値が記録されていないデータの状態。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0011

IT戦略・DX

タグ：教師なし学習

用語：教師なし学習の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. テストデータ
- B. 教師なし学習
- C. 混同行列
- D. データレイク

答え・解説

Q0011 正答：B. 教師なし学習

解説：「教師なし学習」は、正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0012

IT戦略・DX

タグ：教師なし学習

用語：教師なし学習の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「教師なし学習」と関連用語「混同行列」を整理する。「教師なし学習」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤
- B. 分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表
- C. 学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ
- D. 正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習

答え・解説

Q0012 正答：D. 正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習

解説：「教師なし学習」は、正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0013

IT戦略・DX

タグ：強化学習

用語：強化学習の定義と役割（確認パターン1）

「強化学習」と「特徴量」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値
- B. 陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合
- C. 分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤
- D. 行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法

答え・解説

Q0013 正答：D. 行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法

解説：「強化学習」は、行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0014

IT戦略・DX

タグ：強化学習

用語：強化学習の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法」

- A. 特徴量
- B. 強化学習
- C. 適合率
- D. データウェアハウス

答え・解説

Q0014 正答：B. 強化学習

解説：「強化学習」は、行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0015

IT戦略・DX

タグ：強化学習

用語：強化学習の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「強化学習」は、行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0015 正答：○

解説：「強化学習」は、行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0016

IT戦略・DX

タグ：強化学習

用語：強化学習の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「強化学習」は、他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0016 正答：×

解説：×です。「強化学習」は行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法。問題文の説明は「外れ値」の内容で、他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0017

IT戦略・DX

タグ：強化学習

用語：強化学習の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 特徴量
- B. 適合率
- C. データウェアハウス
- D. 強化学習

答え・解説

Q0017 正答：D. 強化学習

解説：「強化学習」は、行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0018

IT戦略・DX

タグ：強化学習

用語：強化学習の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「強化学習」と関連用語「適合率」を整理する。「強化学習」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤
- B. 行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法
- C. 陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合
- D. 予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値

答え・解説

Q0018 正答：B. 行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法

解説：「強化学習」は、行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0019

IT戦略・DX

タグ：回帰

用語：回帰の定義と役割（確認パターン1）

「回帰」と「正規化」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理
- B. 連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題
- C. 実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合
- D. データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理

答え・解説

Q0019 正答：B. 連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題

解説：「回帰」は、連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0020

IT戦略・DX

タグ：回帰

用語：回帰の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題」

- A. 正規化
- B. 再現率
- C. ETL
- D. 回帰

答え・解説

Q0020 正答：D. 回帰

解説：「回帰」は、連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0021

IT戦略・DX

タグ：回帰

用語：回帰の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「回帰」は、連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0021 正答：○

解説：「回帰」は、連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0022

IT戦略・DX

タグ：回帰

用語：回帰の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「回帰」は、分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0022 正答：×

解説：×です。「回帰」は連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題。問題文の説明は「混同行列」の内容で、分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0023

IT戦略・DX

タグ：回帰

用語：回帰の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 正規化
- B. 回帰
- C. 再現率
- D. ETL

答え・解説

Q0023 正答：B. 回帰

解説：「回帰」は、連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0024

IT戦略・DX

タグ：回帰

用語：回帰の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「回帰」と関連用語「再現率」を整理する。「回帰」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理
- B. 実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合
- C. 値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理
- D. 連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題

答え・解説

Q0024 正答：D. 連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題

解説：「回帰」は、連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0025

IT戦略・DX

タグ：分類

用語：分類の定義と役割（確認パターン1）

「分類」と「標準化」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理
- B. 適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標
- C. データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み
- D. 入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題

答え・解説

Q0025 正答：D. 入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題

解説：「分類」は、入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0026

IT戦略・DX

タグ：分類

用語：分類の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題」

- A. 標準化
- B. 分類
- C. F1スコア
- D. データガバナンス

答え・解説

Q0026 正答：B. 分類

解説：「分類」は、入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0027

IT戦略・DX

タグ：分類

用語：分類の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「分類」は、入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0027 正答：○

解説：「分類」は、入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0028

IT戦略・DX

タグ：分類

用語：分類の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「分類」は、陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0028 正答：×

解説：×です。「分類」は入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題。問題文の説明は「適合率」の内容で、陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0029

IT戦略・DX

タグ：分類

用語：分類の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 標準化
- B. F1スコア
- C. データガバナンス
- D. 分類

答え・解説

Q0029 正答：D. 分類

解説：「分類」は、入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0030

IT戦略・DX

タグ：分類

用語：分類の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「分類」と関連用語「F1スコア」を整理する。「分類」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み
- B. 入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題
- C. 適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標
- D. 平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理

答え・解説

Q0030 正答：B. 入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題

解説：「分類」は、入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0031

IT戦略・DX

タグ：クラスタリング

用語：クラスタリングの定義と役割（確認パターン1）

「クラスタリング」と「欠損値」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 観測されるべき値が記録されていないデータの状態
- B. 類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法
- C. 分類しやすい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線
- D. 正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習

答え・解説

Q0031 正答：B. 類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法

解説：「クラスタリング」は、類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0032

IT戦略・DX

タグ：クラスタリング

用語：クラスタリングの定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法」

- A. 欠損値
- B. ROC曲線
- C. 教師あり学習
- D. クラスタリング

答え・解説

Q0032 正答：D. クラスタリング

解説：「クラスタリング」は、類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0033

IT戦略・DX

タグ：クラスタリング

用語：クラスタリングの定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「クラスタリング」は、類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0033 正答：○

解説：「クラスタリング」は、類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0034

IT戦略・DX

タグ：クラスタリング

用語：クラスタリングの定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「クラスタリング」は、実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0034 正答：×

解説：×です。「クラスタリング」は類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法。問題文の説明は「再現率」の内容で、実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0035

IT戦略・DX

タグ：クラスタリング

用語：クラスタリングの定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 欠損値
- B. クラスタリング
- C. ROC曲線
- D. 教師あり学習

答え・解説

Q0035 正答：B. クラスタリング

解説：「クラスタリング」は、類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0036

IT戦略・DX

タグ：クラスタリング

用語：クラスタリングの定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「クラスタリング」と関連用語「ROC曲線」を整理する。「クラスタリング」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習
- B. 分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線
- C. 観測されるべき値が記録されていないデータの状態
- D. 類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法

答え・解説

Q0036 正答：D. 類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法

解説：「クラスタリング」は、類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0037

IT戦略・DX

タグ：過学習

用語：過学習の定義と役割（確認パターン1）

「過学習」と「外れ値」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ
- B. ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標
- C. 正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習
- D. 訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態

答え・解説

Q0037 正答：D. 訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態

解説：「過学習」は、訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0038

IT戦略・DX

タグ：過学習

用語：過学習の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態」

- A. 外れ値
- B. 過学習
- C. AUC
- D. 教師なし学習

答え・解説

Q0038 正答：B. 過学習

解説：「過学習」は、訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0039

IT戦略・DX

タグ：過学習

用語：過学習の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「過学習」は、訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0039 正答：○

解説：「過学習」は、訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0040

IT戦略・DX

タグ：過学習

用語：過学習の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「過学習」は、適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0040 正答：×

解説：×です。「過学習」は訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態。問題文の説明は「F1スコア」の内容で、適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0041

IT戦略・DX

タグ：過学習

用語：過学習の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 外れ値
- B. AUC
- C. 教師なし学習
- D. 過学習

答え・解説

Q0041 正答：D. 過学習

解説：「過学習」は、訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0042

IT戦略・DX

タグ：過学習

用語：過学習の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「過学習」と関連用語「AUC」を整理する。「過学習」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習
- B. 訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態
- C. ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標
- D. 他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ

答え・解説

Q0042 正答：B. 訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態

解説：「過学習」は、訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0043

IT戦略・DX

タグ：交差検証

用語：交差検証の定義と役割（確認パターン1）

「交差検証」と「混同行列」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表
- B. データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法
- C. 構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤
- D. 行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法

答え・解説

Q0043 正答：B. データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法

解説：「交差検証」は、データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0044

IT戦略・DX

タグ：交差検証

用語：交差検証の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法」

- A. 混同行列
- B. データレイク
- C. 強化学習
- D. 交差検証

答え・解説

Q0044 正答：D. 交差検証

解説：「交差検証」は、データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0045

IT戦略・DX

タグ：交差検証

用語：交差検証の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「交差検証」は、データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0045 正答：○

解説：「交差検証」は、データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0046

IT戦略・DX

タグ：交差検証

用語：交差検証の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「交差検証」は、分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0046 正答：×

解説：×です。「交差検証」はデータを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法。問題文の説明は「ROC曲線」の内容で、分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0047

IT戦略・DX

タグ：交差検証

用語：交差検証の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 混同行列
- B. 交差検証
- C. データレイク
- D. 強化学習

答え・解説

Q0047 正答：B. 交差検証

解説：「交差検証」は、データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0048

IT戦略・DX

タグ：交差検証

用語：交差検証の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「交差検証」と関連用語「データレイク」を整理する。「交差検証」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法
- B. 構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤
- C. 分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表
- D. データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法

答え・解説

Q0048 正答：D. データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法

解説：「交差検証」は、データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0049

IT戦略・DX

タグ：訓練データ

用語：訓練データの定義と役割（確認パターン1）

「訓練データ」と「適合率」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合
- B. 分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤
- C. 連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題
- D. モデルのパラメータを学習するために用いるデータ

答え・解説

Q0049 正答：D. モデルのパラメータを学習するために用いるデータ

解説：「訓練データ」は、モデルのパラメータを学習するために用いるデータ。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0050

IT戦略・DX

タグ：訓練データ

用語：訓練データの定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「モデルのパラメータを学習するために用いるデータ」

- A. 適合率
- B. 訓練データ
- C. データウェアハウス
- D. 回帰

答え・解説

Q0050 正答：B. 訓練データ

解説：「訓練データ」は、モデルのパラメータを学習するために用いるデータ。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0051

IT戦略・DX

タグ：訓練データ

用語：訓練データの定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「訓練データ」は、モデルのパラメータを学習するために用いるデータ。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0051 正答：○

解説：「訓練データ」は、モデルのパラメータを学習するために用いるデータ。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0052

IT戦略・DX

タグ：訓練データ

用語：訓練データの定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「訓練データ」は、ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0052 正答：×

解説：×です。「訓練データ」はモデルのパラメータを学習するために用いるデータ。問題文の説明は「AUC」の内容で、ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0053

IT戦略・DX

タグ：訓練データ

用語：訓練データの定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「モデルのパラメータを学習するために用いるデータ」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 適合率
- B. データウェアハウス
- C. 回帰
- D. 訓練データ

答え・解説

Q0053 正答：D. 訓練データ

解説：「訓練データ」は、モデルのパラメータを学習するために用いるデータ。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0054

IT戦略・DX

タグ：訓練データ

用語：訓練データの定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「訓練データ」と関連用語「データウェアハウス」を整理する。「訓練データ」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題
- B. モデルのパラメータを学習するために用いるデータ
- C. 分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤
- D. 陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合

答え・解説

Q0054 正答：B. モデルのパラメータを学習するために用いるデータ

解説：「訓練データ」は、モデルのパラメータを学習するために用いるデータ。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0055

IT戦略・DX

タグ：テストデータ

用語：テストデータの定義と役割（確認パターン1）

「テストデータ」と「再現率」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合
- B. 学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ
- C. データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理
- D. 入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題

答え・解説

Q0055 正答：B. 学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ

解説：「テストデータ」は、学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0056

IT戦略・DX

タグ：テストデータ

用語：テストデータの定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ」

- A. 再現率
- B. ETL
- C. 分類
- D. テストデータ

答え・解説

Q0056 正答：D. テストデータ

解説：「テストデータ」は、学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0057

IT戦略・DX

タグ：テストデータ

用語：テストデータの定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「テストデータ」は、学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0057 正答：○

解説：「テストデータ」は、学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0058

IT戦略・DX

タグ：テストデータ

用語：テストデータの定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「テストデータ」は、構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0058 正答：×

解説：×です。「テストデータ」は学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ。問題文の説明は「データレイク」の内容で、構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0059

IT戦略・DX

タグ：テストデータ

用語：テストデータの定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 再現率
- B. テストデータ
- C. ETL
- D. 分類

答え・解説

Q0059 正答：B. テストデータ

解説：「テストデータ」は、学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0060

IT戦略・DX

タグ：テストデータ

用語：テストデータの定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「テストデータ」と関連用語「ETL」を整理する。「テストデータ」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題
- B. データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理
- C. 実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合
- D. 学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ

答え・解説

Q0060 正答：D. 学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ

解説：「テストデータ」は、学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0061

IT戦略・DX

タグ：特徴量

用語：特徴量の定義と役割（確認パターン1）

「特徴量」と「F1スコア」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標
- B. データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み
- C. 類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法
- D. 予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値

答え・解説

Q0061 正答：D. 予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値

解説：「特徴量」は、予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0062

IT戦略・DX

タグ：特徴量

用語：特徴量の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値」

- A. F1スコア
- B. 特徴量
- C. データガバナンス
- D. クラスタリング

答え・解説

Q0062 正答：B. 特徴量

解説：「特徴量」は、予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0063

IT戦略・DX

タグ：特徴量

用語：特徴量の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「特徴量」は、予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0063 正答：○

解説：「特徴量」は、予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0064

IT戦略・DX

タグ：特徴量

用語：特徴量の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「特徴量」は、分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0064 正答：×

解説：×です。「特徴量」は予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値。問題文の説明は「データウェアハウス」の内容で、分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0065

IT戦略・DX

タグ：特徴量

用語：特徴量の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. F1スコア
- B. データガバナンス
- C. クラスタリング
- D. 特徴量

答え・解説

Q0065 正答：D. 特徴量

解説：「特徴量」は、予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0066

IT戦略・DX

タグ：特徴量

用語：特徴量の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「特徴量」と関連用語「データガバナンス」を整理する。「特徴量」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法
- B. 予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値
- C. データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み
- D. 適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標

答え・解説

Q0066 正答：B. 予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値

解説：「特徴量」は、予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0067

IT戦略・DX

タグ：正規化

用語：正規化の定義と役割（確認パターン1）

「正規化」と「ROC曲線」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線
- B. 値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理
- C. 正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習
- D. 訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態

答え・解説

Q0067 正答：B. 値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理

解説：「正規化」は、値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0068

IT戦略・DX

タグ：正規化

用語：正規化の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理」

- A. ROC曲線
- B. 教師あり学習
- C. 過学習
- D. 正規化

答え・解説

Q0068 正答：D. 正規化

解説：「正規化」は、値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0069

IT戦略・DX

タグ：正規化

用語：正規化の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「正規化」は、値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0069 正答：○

解説：「正規化」は、値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0070

IT戦略・DX

タグ：正規化

用語：正規化の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「正規化」は、データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0070 正答：×

解説：×です。「正規化」は値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理。問題文の説明は「ETL」の内容で、データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0071

IT戦略・DX

タグ：正規化

用語：正規化の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. ROC曲線
- B. 正規化
- C. 教師あり学習
- D. 過学習

答え・解説

Q0071 正答：B. 正規化

解説：「正規化」は、値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0072

IT戦略・DX

タグ：正規化

用語：正規化の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「正規化」と関連用語「教師あり学習」を整理する。「正規化」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態
- B. 正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習
- C. 分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線
- D. 値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理

答え・解説

Q0072 正答：D. 値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理

解説：「正規化」は、値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0073

IT戦略・DX

タグ：標準化

用語：標準化の定義と役割（確認パターン1）

「標準化」と「AUC」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標
- B. 正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習
- C. データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法
- D. 平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理

答え・解説

Q0073 正答：D. 平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理

解説：「標準化」は、平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0074

IT戦略・DX

タグ：標準化

用語：標準化の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理」

- A. AUC
- B. 標準化
- C. 教師なし学習
- D. 交差検証

答え・解説

Q0074 正答：B. 標準化

解説：「標準化」は、平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0075

IT戦略・DX

タグ：標準化

用語：標準化の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「標準化」は、平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0075 正答：○

解説：「標準化」は、平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0076

IT戦略・DX

タグ：標準化

用語：標準化の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「標準化」は、データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0076 正答：×

解説：×です。「標準化」は平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理。問題文の説明は「データガバナンス」の内容で、データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0077

IT戦略・DX

タグ：標準化

用語：標準化の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. AUC
- B. 教師なし学習
- C. 交差検証
- D. 標準化

答え・解説

Q0077 正答：D. 標準化

解説：「標準化」は、平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0078

IT戦略・DX

タグ：標準化

用語：標準化の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「標準化」と関連用語「教師なし学習」を整理する。「標準化」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法
- B. 平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理
- C. 正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習
- D. ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標

答え・解説

Q0078 正答：B. 平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理

解説：「標準化」は、平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0079

IT戦略・DX

タグ：欠損値

用語：欠損値の定義と役割（確認パターン1）

「欠損値」と「データレイク」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤
- B. 観測されるべき値が記録されていないデータの状態
- C. 行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法
- D. モデルのパラメータを学習するために用いるデータ

答え・解説

Q0079 正答：B. 観測されるべき値が記録されていないデータの状態

解説：「欠損値」は、観測されるべき値が記録されていないデータの状態。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0080

IT戦略・DX

タグ：欠損値

用語：欠損値の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「観測されるべき値が記録されていないデータの状態」

- A. データレイク
- B. 強化学習
- C. 訓練データ
- D. 欠損値

答え・解説

Q0080 正答：D. 欠損値

解説：「欠損値」は、観測されるべき値が記録されていないデータの状態。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0081

IT戦略・DX

タグ：欠損値

用語：欠損値の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「欠損値」は、観測されるべき値が記録されていないデータの状態。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0081 正答：○

解説：「欠損値」は、観測されるべき値が記録されていないデータの状態。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0082

IT戦略・DX

タグ：欠損値

用語：欠損値の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「欠損値」は、正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0082 正答：×

解説：×です。「欠損値」は観測されるべき値が記録されていないデータの状態。問題文の説明は「教師あり学習」の内容で、正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0083

IT戦略・DX

タグ：欠損値

用語：欠損値の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「観測されるべき値が記録されていないデータの状態」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. データレイク
- B. 欠損値
- C. 強化学習
- D. 訓練データ

答え・解説

Q0083 正答：B. 欠損値

解説：「欠損値」は、観測されるべき値が記録されていないデータの状態。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0084

IT戦略・DX

タグ：欠損値

用語：欠損値の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「欠損値」と関連用語「強化学習」を整理する。「欠損値」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. モデルのパラメータを学習するために用いるデータ
- B. 行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法
- C. 構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤
- D. 観測されるべき値が記録されていないデータの状態

答え・解説

Q0084 正答：D. 観測されるべき値が記録されていないデータの状態

解説：「欠損値」は、観測されるべき値が記録されていないデータの状態。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0085

IT戦略・DX

タグ：外れ値

用語：外れ値の定義と役割（確認パターン1）

「外れ値」と「データウェアハウス」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤
- B. 連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題
- C. 学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ
- D. 他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ

答え・解説

Q0085 正答：D. 他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ

解説：「外れ値」は、他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0086

IT戦略・DX

タグ：外れ値

用語：外れ値の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ」

- A. データウェアハウス
- B. 外れ値
- C. 回帰
- D. テストデータ

答え・解説

Q0086 正答：B. 外れ値

解説：「外れ値」は、他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0087

IT戦略・DX

タグ：外れ値

用語：外れ値の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「外れ値」は、他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0087 正答：○

解説：「外れ値」は、他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0088

IT戦略・DX

タグ：外れ値

用語：外れ値の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「外れ値」は、正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0088 正答：×

解説：×です。「外れ値」は他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ。問題文の説明は「教師なし学習」の内容で、正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0089

IT戦略・DX

タグ：外れ値

用語：外れ値の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. データウェアハウス
- B. 回帰
- C. テストデータ
- D. 外れ値

答え・解説

Q0089 正答：D. 外れ値

解説：「外れ値」は、他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0090

IT戦略・DX

タグ：外れ値

用語：外れ値の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「外れ値」と関連用語「回帰」を整理する。「外れ値」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ
- B. 他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ
- C. 連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題
- D. 分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤

答え・解説

Q0090 正答：B. 他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ

解説：「外れ値」は、他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0091

IT戦略・DX

タグ：混同行列

用語：混同行列の定義と役割（確認パターン1）

「混同行列」と「ETL」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理
- B. 分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表
- C. 入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題
- D. 予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値

答え・解説

Q0091 正答：B. 分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表

解説：「混同行列」は、分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0092

IT戦略・DX

タグ：混同行列

用語：混同行列の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表」

- A. ETL
- B. 分類
- C. 特徴量
- D. 混同行列

答え・解説

Q0092 正答：D. 混同行列

解説：「混同行列」は、分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0093

IT戦略・DX

タグ：混同行列

用語：混同行列の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「混同行列」は、分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0093 正答：○

解説：「混同行列」は、分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0094

IT戦略・DX

タグ：混同行列

用語：混同行列の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「混同行列」は、行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0094 正答：×

解説：×です。「混同行列」は分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表。問題文の説明は「強化学習」の内容で、行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0095

IT戦略・DX

タグ：混同行列

用語：混同行列の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. ETL
- B. 混同行列
- C. 分類
- D. 特徴量

答え・解説

Q0095 正答：B. 混同行列

解説：「混同行列」は、分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0096

IT戦略・DX

タグ：混同行列

用語：混同行列の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「混同行列」と関連用語「分類」を整理する。「混同行列」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値
- B. 入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題
- C. データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理
- D. 分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表

答え・解説

Q0096 正答：D. 分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表

解説：「混同行列」は、分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0097

IT戦略・DX

タグ：適合率

用語：適合率の定義と役割（確認パターン1）

「適合率」と「データガバナンス」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み
- B. 類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法
- C. 値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理
- D. 陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合

答え・解説

Q0097 正答：D. 陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合

解説：「適合率」は、陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0098

IT戦略・DX

タグ：適合率

用語：適合率の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合」

- A. データガバナンス
- B. 適合率
- C. クラスタリング
- D. 正規化

答え・解説

Q0098 正答：B. 適合率

解説：「適合率」は、陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0099

IT戦略・DX

タグ：適合率

用語：適合率の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「適合率」は、陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0099 正答：○

解説：「適合率」は、陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0100

IT戦略・DX

タグ：適合率

用語：適合率の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「適合率」は、連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0100 正答：×

解説：×です。「適合率」は陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合。問題文の説明は「回帰」の内容で、連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0101

IT戦略・DX

タグ：適合率

用語：適合率の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. データガバナンス
- B. クラスタリング
- C. 正規化
- D. 適合率

答え・解説

Q0101 正答：D. 適合率

解説：「適合率」は、陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0102

IT戦略・DX

タグ：適合率

用語：適合率の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「適合率」と関連用語「クラスタリング」を整理する。「適合率」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理
- B. 陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合
- C. 類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法
- D. データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み

答え・解説

Q0102 正答：B. 陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合

解説：「適合率」は、陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0103

IT戦略・DX

タグ：再現率

用語：再現率の定義と役割（確認パターン1）

「再現率」と「教師あり学習」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習
- B. 実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合
- C. 訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態
- D. 平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理

答え・解説

Q0103 正答：B. 実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合

解説：「再現率」は、実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0104

IT戦略・DX

タグ：再現率

用語：再現率の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合」

- A. 教師あり学習
- B. 過学習
- C. 標準化
- D. 再現率

答え・解説

Q0104 正答：D. 再現率

解説：「再現率」は、実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0105

IT戦略・DX

タグ：再現率

用語：再現率の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「再現率」は、実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0105 正答：○

解説：「再現率」は、実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0106

IT戦略・DX

タグ：再現率

用語：再現率の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「再現率」は、入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0106 正答：×

解説：×です。「再現率」は実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合。問題文の説明は「分類」の内容で、入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0107

IT戦略・DX

タグ：再現率

用語：再現率の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 教師あり学習
- B. 再現率
- C. 過学習
- D. 標準化

答え・解説

Q0107 正答：B. 再現率

解説：「再現率」は、実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0108

IT戦略・DX

タグ：再現率

用語：再現率の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「再現率」と関連用語「過学習」を整理する。「再現率」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理
- B. 訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態
- C. 正解ラベル付きデータから入力と出力の関係を学習する機械学習
- D. 実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合

答え・解説

Q0108 正答：D. 実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合

解説：「再現率」は、実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0109

IT戦略・DX

タグ：F1スコア

用語：F1スコアの定義と役割（確認パターン1）

「F1スコア」と「教師なし学習」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習
- B. データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法
- C. 観測されるべき値が記録されていないデータの状態
- D. 適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標

答え・解説

Q0109 正答：D. 適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標

解説：「F1スコア」は、適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0110

IT戦略・DX

タグ：F1スコア

用語：F1スコアの定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標」

- A. 教師なし学習
- B. F1スコア
- C. 交差検証
- D. 欠損値

答え・解説

Q0110 正答：B. F1スコア

解説：「F1スコア」は、適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0111

IT戦略・DX

タグ：F1スコア

用語：F1スコアの定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「F1スコア」は、適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0111 正答：○

解説：「F1スコア」は、適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0112

IT戦略・DX

タグ：F1スコア

用語：F1スコアの定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「F1スコア」は、類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0112 正答：×

解説：×です。「F1スコア」は適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標。問題文の説明は「クラスタリング」の内容で、類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0113

IT戦略・DX

タグ：F1スコア

用語：F1スコアの定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 教師なし学習
- B. 交差検証
- C. 欠損値
- D. F1スコア

答え・解説

Q0113 正答：D. F1スコア

解説：「F1スコア」は、適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0114

IT戦略・DX

タグ：F1スコア

用語：F1スコアの定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「F1スコア」と関連用語「交差検証」を整理する。「F1スコア」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 観測されるべき値が記録されていないデータの状態
- B. 適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標
- C. データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法
- D. 正解ラベルなしデータから構造やパターンを見つける機械学習

答え・解説

Q0114 正答：B. 適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標

解説：「F1スコア」は、適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0115

IT戦略・DX

タグ：ROC曲線

用語：ROC曲線の定義と役割（確認パターン1）

「ROC曲線」と「強化学習」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法
- B. 分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線
- C. モデルのパラメータを学習するために用いるデータ
- D. 他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ

答え・解説

Q0115 正答：B. 分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線

解説：「ROC曲線」は、分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0116

IT戦略・DX

タグ：ROC曲線

用語：ROC曲線の定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線」

- A. 強化学習
- B. 訓練データ
- C. 外れ値
- D. ROC曲線

答え・解説

Q0116 正答：D. ROC曲線

解説：「ROC曲線」は、分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0117

IT戦略・DX

タグ：ROC曲線

用語：ROC曲線の定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「ROC曲線」は、分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0117 正答：○

解説：「ROC曲線」は、分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0118

IT戦略・DX

タグ：ROC曲線

用語：ROC曲線の定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「ROC曲線」は、訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0118 正答：×

解説：×です。「ROC曲線」は分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線。問題文の説明は「過学習」の内容で、訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0119

IT戦略・DX

タグ：ROC曲線

用語：ROC曲線の定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 強化学習
- B. ROC曲線
- C. 訓練データ
- D. 外れ値

答え・解説

Q0119 正答：B. ROC曲線

解説：「ROC曲線」は、分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0120

IT戦略・DX

タグ：ROC曲線

用語：ROC曲線の定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「ROC曲線」と関連用語「訓練データ」を整理する。「ROC曲線」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 他の観測値から大きく離れた値で原因確認が必要なデータ
- B. モデルのパラメータを学習するために用いるデータ
- C. 行動による報酬を基に累積報酬が大きくなる方策を学ぶ方法
- D. 分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線

答え・解説

Q0120 正答：D. 分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線

解説：「ROC曲線」は、分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0121

IT戦略・DX

タグ：AUC

用語：AUCの定義と役割（確認パターン1）

「AUC」と「回帰」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題
- B. 学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ
- C. 分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表
- D. ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標

答え・解説

Q0121 正答：D. ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標

解説：「AUC」は、ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0122

IT戦略・DX

タグ：AUC

用語：AUCの定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標」

- A. 回帰
- B. AUC
- C. テストデータ
- D. 混同行列

答え・解説

Q0122 正答：B. AUC

解説：「AUC」は、ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0123

IT戦略・DX

タグ：AUC

用語：AUCの定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「AUC」は、ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0123 正答：○

解説：「AUC」は、ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0124

IT戦略・DX

タグ：AUC

用語：AUCの定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「AUC」は、データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0124 正答：×

解説：×です。「AUC」はROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標。問題文の説明は「交差検証」の内容で、データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0125

IT戦略・DX

タグ：AUC

用語：AUCの定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 回帰
- B. テストデータ
- C. 混同行列
- D. AUC

答え・解説

Q0125 正答：D. AUC

解説：「AUC」は、ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0126

IT戦略・DX

タグ：AUC

用語：AUCの定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「AUC」と関連用語「テストデータ」を整理する。「AUC」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 分類結果を実際のクラスと予測クラスの組合せで集計した表
- B. ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標
- C. 学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ
- D. 連続値の目的変数を説明変数から予測する分析・学習問題

答え・解説

Q0126 正答：B. ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標

解説：「AUC」は、ROC曲線下の面積で分類モデルの順位付け性能を表す指標。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0127

IT戦略・DX

タグ：データレイク

用語：データレイクの定義と役割（確認パターン1）

「データレイク」と「分類」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題
- B. 構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤
- C. 予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値
- D. 陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合

答え・解説

Q0127 正答：B. 構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤

解説：「データレイク」は、構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0128

IT戦略・DX

タグ：データレイク

用語：データレイクの定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤」

- A. 分類
- B. 特徴量
- C. 適合率
- D. データレイク

答え・解説

Q0128 正答：D. データレイク

解説：「データレイク」は、構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0129

IT戦略・DX

タグ：データレイク

用語：データレイクの定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「データレイク」は、構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0129 正答：○

解説：「データレイク」は、構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0130

IT戦略・DX

タグ：データレイク

用語：データレイクの定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「データレイク」は、モデルのパラメータを学習するために用いるデータ。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0130 正答：×

解説：×です。「データレイク」は構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤。問題文の説明は「訓練データ」の内容で、モデルのパラメータを学習するために用いるデータ。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0131

IT戦略・DX

タグ：データレイク

用語：データレイクの定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 分類
- B. データレイク
- C. 特徴量
- D. 適合率

答え・解説

Q0131 正答：B. データレイク

解説：「データレイク」は、構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0132

IT戦略・DX

タグ：データレイク

用語：データレイクの定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「データレイク」と関連用語「特徴量」を整理する。「データレイク」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 陽性と予測したもののうち実際に陽性だった割合
- B. 予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値
- C. 入力データをあらかじめ定義したカテゴリへ割り当てる学習問題
- D. 構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤

答え・解説

Q0132 正答：D. 構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤

解説：「データレイク」は、構造化・非構造化データを原形式に近い形で集約する基盤。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0133

IT戦略・DX

タグ：データウェアハウス

用語：データウェアハウスの定義と役割（確認パターン1）

「データウェアハウス」と「クラスタリング」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法
- B. 値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理
- C. 実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合
- D. 分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤

答え・解説

Q0133 正答：D. 分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤

解説：「データウェアハウス」は、分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0134

IT戦略・DX

タグ：データウェアハウス

用語：データウェアハウスの定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤」

- A. クラスタリング
- B. データウェアハウス
- C. 正規化
- D. 再現率

答え・解説

Q0134 正答：B. データウェアハウス

解説：「データウェアハウス」は、分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0135

IT戦略・DX

タグ：データウェアハウス

用語：データウェアハウスの定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「データウェアハウス」は、分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0135 正答：○

解説：「データウェアハウス」は、分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0136

IT戦略・DX

タグ：データウェアハウス

用語：データウェアハウスの定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「データウェアハウス」は、学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0136 正答：×

解説：×です。「データウェアハウス」は分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤。問題文の説明は「テストデータ」の内容で、学習後のモデル性能を最終評価するため学習に使わないデータ。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0137

IT戦略・DX

タグ：データウェアハウス

用語：データウェアハウスの定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. クラスタリング
- B. 正規化
- C. 再現率
- D. データウェアハウス

答え・解説

Q0137 正答：D. データウェアハウス

解説：「データウェアハウス」は、分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0138

IT戦略・DX

タグ：データウェアハウス

用語：データウェアハウスの定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「データウェアハウス」と関連用語「正規化」を整理する。「データウェアハウス」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 実際の陽性のうちモデルが陽性と予測できた割合
- B. 分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤
- C. 値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理
- D. 類似したデータ同士をラベルなしでグループ化する手法

答え・解説

Q0138 正答：B. 分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤

解説：「データウェアハウス」は、分析用途に統合・整理した時系列データを蓄積する基盤。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0139

IT戦略・DX

タグ：ETL

用語：ETLの定義と役割（確認パターン1）

「ETL」と「過学習」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. 訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態
- B. データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理
- C. 平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理
- D. 適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標

答え・解説

Q0139 正答：B. データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理

解説：「ETL」は、データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0140

IT戦略・DX

タグ：ETL

用語：ETLの定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理」

- A. 過学習
- B. 標準化
- C. F1スコア
- D. ETL

答え・解説

Q0140 正答：D. ETL

解説：「ETL」は、データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0141

IT戦略・DX

タグ：ETL

用語：ETLの定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「ETL」は、データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0141 正答：○

解説：「ETL」は、データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0142

IT戦略・DX

タグ：ETL

用語：ETLの定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「ETL」は、予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0142 正答：×

解説：×です。「ETL」はデータを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理。問題文の説明は「特徴量」の内容で、予測や分類の入力として用いるデータの属性や変換値。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0143

IT戦略・DX

タグ：ETL

用語：ETLの定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 過学習
- B. ETL
- C. 標準化
- D. F1スコア

答え・解説

Q0143 正答：B. ETL

解説：「ETL」は、データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0144

IT戦略・DX

タグ：ETL

用語：ETLの定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「ETL」と関連用語「標準化」を整理する。「ETL」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 適合率と再現率の調和平均で両者を一つにまとめた指標
- B. 平均0・標準偏差1などの尺度へ変換する前処理
- C. 訓練データへ適合しすぎ未知データへの予測性能が低下する状態
- D. データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理

答え・解説

Q0144 正答：D. データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理

解説：「ETL」は、データを抽出し変換して目的の格納先へロードする処理。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合があっても、定義上の中心目的が異なります。

Q0145

IT戦略・DX

タグ：データガバナンス

用語：データガバナンスの定義と役割（確認パターン1）

「データガバナンス」と「交差検証」を区別して理解する。前者の中心的な説明として最も適切なものはどれか。

- A. データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法
- B. 観測されるべき値が記録されていないデータの状態
- C. 分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線
- D. データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み

答え・解説

Q0145 正答：D. データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み

解説：「データガバナンス」は、データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み。用語だけでなく、この役割と適用場面を結び付けて覚えると、条件が変わる問題でも判断しやすくなります。

Q0146

IT戦略・DX

タグ：データガバナンス

用語：データガバナンスの定義と役割（確認パターン2）

次の説明に該当する用語はどれか。「データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み」

- A. 交差検証
- B. データガバナンス
- C. 欠損値
- D. ROC曲線

答え・解説

Q0146 正答：B. データガバナンス

解説：「データガバナンス」は、データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み。定義の中心となる目的を押さえ、似た用語とは「何を対象にし、何を実現するか」で区別してください。

Q0147

IT戦略・DX

タグ：データガバナンス

用語：データガバナンスの定義と役割（確認パターン3）

次の記述は正しいか。「データガバナンス」は、データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0147 正答：○

解説：「データガバナンス」は、データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み。この特徴が正答の根拠です。試験では周辺用語と並べて問われやすいため、機能の違いまで整理しておくことが重要です。

Q0148

IT戦略・DX

タグ：データガバナンス

用語：データガバナンスの定義と役割（確認パターン4）

次の記述は正しいか。「データガバナンス」は、値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0148 正答：×

解説：×です。「データガバナンス」はデータの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み。問題文の説明は「正規化」の内容で、値の尺度をそろえるため一定範囲などへ変換する前処理。記述は別の概念の説明を取り違えています。名称だけの暗記ではなく、対象・目的・仕組みの対応関係で確認しましょう。

Q0149

IT戦略・DX

タグ：データガバナンス

用語：データガバナンスの定義と役割（確認パターン5）

実務や設計で「データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み」という目的・特徴に最も直接対応する用語はどれか。

- A. 交差検証
- B. 欠損値
- C. ROC曲線
- D. データガバナンス

答え・解説

Q0149 正答：D. データガバナンス

解説：「データガバナンス」は、データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み。実務上の目的を言い換えた問題です。中心的な機能を理解していれば、表現が変わっても正しい用語を選べます。

Q0150

IT戦略・DX

タグ：データガバナンス

用語：データガバナンスの定義と役割（確認パターン6）

IT戦略・DXで「データガバナンス」と関連用語「欠損値」を整理する。「データガバナンス」自体の定義として最も適切なものはどれか。

- A. 分類しきい値を変えたときの真陽性率と偽陽性率の関係を示す曲線
- B. データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み
- C. 観測されるべき値が記録されていないデータの状態
- D. データを分割し学習と評価を入れ替えて汎化性能を推定する方法

答え・解説

Q0150 正答：B. データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み

解説：「データガバナンス」は、データの品質・責任・権限・利用ルールを組織的に統制する仕組み。この説明が最も直接的に対応します。他の選択肢は関連する場合がありますが、定義上の中心目的が異なります。